

# 山陰

編集 山陰教区基幹運動推進委員会  
発行 山陰教区事務所  
〒900-0001 松江市大正町四三ノ一  
本願寺山陰教堂  
TEL 〇八五二 四七四七  
FAX 〇八五二 〇八三五一  
発行者 金山山往生

## 山陰教区教区会議員本山参拝について

山陰教区教区会 議長 小笠原 寧之

去る十月十二・十三日に、教区会議員の本山参拝を実施いたしました。僧侶議員十五名・門徒議員五名、それに教務所長・賛事を加えての参拝です。教区会議員の本山参拝の趣旨は、このたびは、大谷本廟においての親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に参拝し、一年半後に迫る本山での大遠忌法要円成

に取り組むと共に機運を高め、更に総局との面接の機会を得て、宗門の方向性等についての言葉を頂くものです。十二日は議員の懇親を深め、十三日午前十時半より宗務所において総局との参拝式に臨みました。総局から園城総務が出席され、始めに参拝の御礼と共に、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

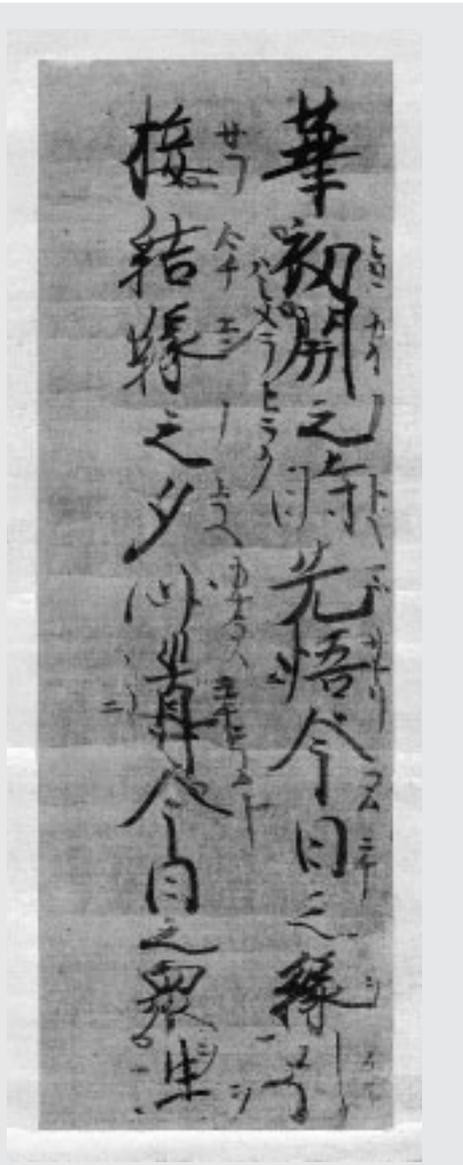
の円成と宗門長期振興計画のさらなる推進を宗門挙げて取り組まなくてはならない旨の言葉を頂き、続いて過疎対策の一環として寺院振興金庫からの貸付、助成を利用していただきたいとのことでした。

引き続き山陰教区の現況を、教区会議長として、次のように報告させて頂きました。このたびの参拝の目的である七百五十回大遠忌法要の円成と機運の高揚、宗門の長期振興計画の推進に対する教区の取り組みを申し上げ、更に山陰教区において七百五十回大遠忌の記念事業として、過疎化・高齢化にともなう諸問題に対処するため、間法・人材育成の場としての山陰教堂教化センターの建設を計画し、そのための募財を始めたところであり、総局にご協力をお願いいたしました。

また教区基幹運動推進委員会によつて、任職不在等のために法座開催が困難な寺院を対象に「ともしび法座」を開催し、御法義相続と寺院機能の復興をはかる事業を展開していますが、その成果をあげていくことを伝えて、参拝式を終了しました。

午後、大谷本廟の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に参拝いたしました。法要はご門主の御導師、新門さまご出座のもと明著堂でつとめられ、おつとめ後にはご門主が「お言葉」を述べられ、お念仏繁盛へ向けての機縁となりました。

参拝した教区会議員一同、法要のご勝縁に遇い得た喜びを、教化センターの早期の完成と、今後の教区会・基幹運動推進のために期してまいりたいと思います。



寺院名物シリーズ④ 宗祖聖人筆断翰 石東組法専寺

当山16世小笠原大成が京都東山泉涌寺の佐伯旭雅和上の下に遊学中、東福寺山内の同聚院に止宿していた折、住職の爾東嶺師より譲り受け大切に秘蔵しているものです。

法然聖人が入滅されて、六七日の法要に聖覚法印が導師を勤められた時の表白文（真宗聖教全書第5巻92～93頁）の結語で「華初開ノ時、先ズ今日ノ縁ヲ悟り、引接結縁ノ夕、今日ノ衆ヲ導カン」との断翰で高田派勸学・故生桑完明先生は『唯信鈔』を书写された57歳頃の文字に近いと学界に紹介されました。

# 就任ご挨拶

山陰教区教務所長  
山陰教堂主管  
親鸞聖人 七百五十回  
大遠忌  
法要山陰教区法要事務所長

金山往生



十二月一日付  
をもちまして、  
山陰教区教務所  
長並びに山陰教  
堂主管を拝命

推進共々努力致す所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。誠に簡略ではございますが、就任のご挨拶とさせていただきます。

し、東北教区教務所長より転任いたしました。山陰教区は初めての任地ですが、ご法義のあつい教区と承っております。すぐる十二月五日には、教区内十八番目となった「松江組親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要」にお招きを頂きまして、組内の皆様による「手作り」のご法要にご縁を頂戴いたし、組挙げて大遠忌法要に向け機運の向上を期してのご法要ご修行を目的に、松江組の皆様のご熱意に敬意を表する次第でございます。

ご挨拶  
総局公室部長 三 明 浄 信



此の度、平成二十一年十二月一日付で総局公室部長（基幹運動推進本部事務担当・門信徒会運動担当・同朋運動担当）を拝命致しました。

山陰教区は山口・安芸・備後・兵庫の各教区に隣接するなど、この度の「組画編成」に向けさまざまな角度からの調査検討・調整にお取り組み頂くことであり、また、本願寺山陰教堂教化センター開設など、皆様のご理解とご協賛を頂きながら誠に微力ではございますが、基幹運動の

山陰教堂主管の任を、三年間微力であるにもかかわらず、温かくご指導をいただき、勤めることが出来ましたこと、厚く厚くお礼申し上げます。在任中を振り返って見ますと、多くの方々との出会い、数多くの会議及び行事等に接し、お育てをいただきました。特に、新門さま並びに新裏方さま

をお迎えしての「山陰教区ご巡回・本願寺山陰教堂ご参拝」は、記憶に新しいところであります。万全を期しての準備等で、小笠原靈之教区会議長、日溪清毅組長会長を始めとし、教区内の皆さまのお力添えによって意義ある出会いを得させていただいたこと感謝しております。この出会いが、今後の山陰教区の課題と方策を含んでいるものと思えます。

最後になりますが、山陰教区内の皆さまの益々のお念仏相続のご尽力をお願い申し上げます、退任にあたってのご挨拶と致します。時節柄ご自愛の程念じ上げます。

## ブロック連絡会

7月中下旬及び9月上中旬に亘り、「基幹運動推進ブロック連絡会」が開催されました。各ブロックでの概要は別表の通りです。それぞれのブロックでの課題の共有が、今後の組活動、寺院の活性化に繋がることを期待してやみません。

ブロック	期日	会場	内容(テーマ)	参加者
石西	7月13日	福屋組/千田・浄光寺	バリアフリーの教化活動	107名
鳥取	7月22日	因幡組/願正寺	因幡・伯耆両組基推委活性化の方策	約60名
出雲	7月24日	松江プラハホール	「開かれたお寺」をめざして	145名
石東	9月 7日	石東組/法専寺	親鸞聖人750回大遠忌法要に向けて	81名
邑智	9月15日	市山組/長玄寺	親鸞聖人750回大遠忌法要にのぞんで	約60名

御本山 **近** 用達

株式会社

# 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055  
(600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367 (代)  
FAX (075) 371-5088

仏壇・寺院用品・製造・修復

報恩感謝

ぶつだんの

# 内田衷造商店

木次 ☎(0854)42-0266 下熊谷 ☎(0854)42-3711  
出雲 ☎(0853)21-3253

どんな小さなことでも誠実に謙虚に、一人ひとりを大切にしていけば、一人が二人、二人が三人、三人が四人…と、波紋は必ず広がっていく念いで、教化活動を行っています。

寺院の役割と活動は、宗祖親鸞聖人の説かれた本願念仏のみ教えを教化、伝道することにあります。

過疎と高齢化、少子化と、いたずらに現状を嘆くばかりではなく、現状を克服するために、今何をするべきかを常に考えてきました。

それは、本願念仏のみ教えに出遇ってほしい、聞法してほしい念いからです。そのため教化活動と、参拝しやすい環境づくりを行っています。

年七回発行している寺報「はちす」。読んで見て感じてもらうなくては念いは通じません。カラー印刷でA4版十二ページ、活字も大きく中学生にも読んでもらえるように、内容はできるだけやさしく、写真を多くとり入れていきます。様々なことを相談してくださる縁となっています。「正信念仏偈」の現代語訳(本願寺版)を編集し、法座や法事で拝読しています。高齢者にも若者にも、読んで聞いてもわかりやす

### 憂 楽 帳

## まことの念仏者となる学びと実践

西教寺住職  
三谷卓良

く、味わい深いと好評で、質問も若者から多く寄せられるようになりました。

CD「みんなであうたう仏教讃歌(低音版)」を企画・制作しました。低音なのでとても歌いやすいと、法座や研修会等で大きな声が本堂いっぱい響きわたっています。

本堂、庫裏をバリアフリーに改造し、車イスの人も、足の不自由な人も安心してゆったりと参拝できるようになりました。本堂も庫裏(お斎)もともに机とイスにしています。あらゆる「いのち」あるものとともに生きるという願いに基づき、だれでもお参りできるように整備を図りました。

寺院維持のためなら、人が集まりさえすれば何でもありではなく、寺院の教化活動はすべて信心に基づいたものではなくてはならないと念います。一つひとつの小さな積み重ねが、本願念仏のみ教えに出遇っていただく機縁となり、波紋が少しずつ広がって

きています。

宗祖親鸞聖人の精神に立ち返り、まことの念仏者となる学びと実践へ、さらなる努力を重ねてまいります。



## 『良い出会いに感謝』

若婦人研修会

大家組龍藏寺仏婦 森

弘 枝

研修会に参加するようにお話を頂いた時には、私など行っても場違いだろうと、何とかお断りしようと思いましたが、皆さんに誘って頂き、話だけ聞かずともりで参加させて頂きました。お寺の行事に参加するのは小学生の頃、もう二十年以上前の日曜学校以来です。

まず、式章に戸惑いました。上下があるという事も初めて知りました。こんな調子です。きつと私にはわからない難しい研修会になると思っていました。

キッズサンガのお話は、私にも小学生の子供がおりますので興味を持って聞きしました。私の子供の頃は日曜学校があり、お経を読みおやつを食べ、ゲームをして過ごした楽しい思い出があります。もちろんその頃はみんなと遊ぶのが目的でしたが、悪い事をする地獄に行くのだと《クモの糸》のスライドを見て、絶対に悪い事はやめようと思つたこと、飯ごうでご飯を炊いてカレーを作つてみんなで食べた事などを思い出しました。

午後からは笑いを交えての楽しくわかりやすいお話でした。私は念仏とか仏さまとかにどういう意味があるのか全く興味が無かったのですが、ご家族の話を例に聞き、母が子を思うように阿弥陀さまが私を見て下さっていると考えると、私にもよくわかりました。普段の生活ではまだあまり感じる事はありませんが、たまには生かされている事、見守られていると思う事は、私の価値観をまた違った方へ導いてくれるのではないかと感じました。

雨の日の思いがけない研修会でしたが、良い出会いに感謝いたします。

研修会に参加するようにお話を頂いた時には、私など行っても場違いだろうと、何とかお断りしようと思いましたが、皆さんに誘って頂き、話だけ聞かずともりで参加させて頂きました。お寺の行事に参加するのは小学生の頃、もう二十年以上前の日曜学校以来です。

まず、式章に戸惑いました。上下があるという事も初めて知りました。こんな調子です。きつと私にはわからない難しい研修会になると思っていました。

キッズサンガのお話は、私にも小学生の子供がおりますので興味を持って聞きしました。私の子供の頃は日曜学校があり、お経を読みおやつを食べ、ゲームをして過ごした楽しい思い出があります。もちろんその頃はみんなと遊ぶのが目的でしたが、悪い事をする地獄に行くのだと《クモの糸》のスライドを見て、絶対に悪い事はやめようと思つたこと、飯ごうでご飯を炊いてカレーを作つてみんなで食べた事などを思い出しました。

午後からは笑いを交えての楽しくわかりやすいお話でした。私は念仏とか仏さまとかにどういう意味があるのか全く興味が無かったのですが、ご家族の話を例に聞き、母が子を思うように阿弥陀さまが私を見て下さっていると考えると、私にもよくわかりました。普段の生活ではまだあまり感じる事はありませんが、たまには生かされている事、見守られていると思う事は、私の価値観をまた違った方へ導いてくれるのではないかと感じました。

雨の日の思いがけない研修会でしたが、良い出会いに感謝いたします。

## 地区別布教大会に参加

益田組善正寺 齊藤友法

私は、この地区別布教大会に初めて参加をさせて頂きました。それと同時に、初めて出講というものをさせて頂いていただく縁でもありました。

会所寺院様では、優しくそしてまなざしはまっすぐで、私の緊張もほぐしてもらえました。隅々に至るまで丁寧な接してもらったり、色々のご配慮して頂きながら、自分の未熟さや勉強不足な点を振りかえらせてもらえた有難い縁でした。一緒に出講されておられました先輩の布教使さんにも色々と学ばさせて頂きました、その日一日全て得難いものでありました。

次の日の研修会では、講師先生の話聞きながら周りを見渡すと、誰もが見えるようにしておられる姿勢に感動させて頂きました。

所々、休憩時間に他の参加者さんと話をする機会もあり、意見交換をしながら、その人その人の考えなどを聞かせてもらえました。

私はこの地区別布教大会を通して、改めて人と人との交流や御同行さんのあたたかさに触れ、またそこから自分というものを考えさせて頂きました。これからまだまだ色々な事があると思います、この地区別布教大会で学んだ事を活かしていきたいと思います。有難うございました。

## 第四連区保育連盟

### 「研修講座報告」

山陰教区保育連盟理事長 西谷正文

今年度の保育連盟の大きな行事として、二つの研修講座がありました。

一つは、毎年行われている「中・四国ブロックまことの保育大学講座」で、今年度は山口教区の担当により、周南市(旧徳山市)で開催されました。

上山大峻先生の基調講演は、先生と同じ長門市生まれの金子みずささんの詩を紹介しながら、「心ゆたかな子に育てたい」という演題でお話をいただきました。

次は、山口市出身のシンガーソングライター・ちひろさんによる、やはりみずささんの詩を中心とした歌とトークのコンサートがありました。

翌日は、落語家・露の新治師匠による人権高座、「笑顔でくらす、願いに生きる」と題しての講演がありました。

とても充実した内容で、山口教区ならではの趣向を凝らした研修会でした。

二つ目は、今年度初めて開催した、山陰教区保育連盟まことの保育研修

会です。

これは、本山の保育連盟で奨励している、新任教職員の「補任式」を、当教区版としてアレンジしたものです。これまで教区保育連盟として開催してこなかった「補任式」を、対象を新任教職員に限定せず、誰でもが参加できる研修とし、まことの保育の基本を学んでいこうとしたものです。

まず、本山の保育連盟で制定している「こどもの礼拝」をDVDにより学習しました。次に、教区保育連盟副理事長の朝枝成先生の指導で、仏事作法を学びました。そして、理事長の西谷が「まことの保育について」と題して、講義しました。

本山の保育連盟では、浄土真宗の寺院が運営している幼稚園や保育園で実践されている保育を「まことの保育」と呼んでいるのですが、この「まこと」という言葉がなかなか理解できないのが現状です。

これまでさまざまな研修会で、「まことの保育」について取り上げられてはきましたが、どの講師も、

はつきりと「これがまことの保育だ」との明言は避けてきているように感じています。いつも消化不良のまま終わっていたように思います。

今回は「私にとつてのまことの保育」という視点で、親鸞聖人の生き方の中で、まことを感じ取ることが大切なことを話しました。特に、法然聖人との出会い、妻惠信尼さまとの生活、息子善鸞義絶事件をキープイントとして挙げました。

最後に、保育連盟ではなく、少年連盟で歌われている「明日に向かって」という歌を全員で力強く歌って、終了しました。

一回だけの研修で終わるのではなく、保育連盟独自の連続研修になれば、という願いを持って、継続していきたいと思っています。



僧侶研修会  
(勤式講習会・教学座談会)

九月二十八日・二十九日の両日、出雲空港ホテルを会場に僧侶研修会並びに勤式講習会、併せて教学座談会が開催された。僧侶研修会では龍谷大学教授・大田利生先生を招聘して「大経における極楽莊嚴の現代的意義」について講義をいただき、勤式講習会では「宗祖讃仰作法」、教学座談会は「供養」をテーマにそれぞれ研鑽を深めた。参加者は延べにして百九名、教学座談会には二十九名の参加をいただいた。

まず僧侶研修会では、冒頭「極楽莊嚴」という言葉遣いの誤謬、つまり「極楽」「莊嚴」の語のもつ本来的意義と、現在曖昧に使用しているこれらの語による概念から来る危険性について指摘を受けた。つまり、例えば「地獄」の反意語として使用している「極楽」は正確ではなく、語句本来の意から言えば「天上界」が地獄のそれに当たるといふ。そうして「莊嚴」という語が「静的」に使用されていることに対して、天親菩薩の『浄土論』、曇鸞大師の『往生論註』などの理解を踏まえた上で、それが本来「動的」なるものであることを明かにされ、さらに展開して光明、名号のはたらきについてご講義いただいた。

積に立って理解している多くの参加者にとつては、ある意味で「青天の霹靂」的に感ぜられたようである。しかし、それは釈尊と阿弥陀仏の關係と、法蔵菩薩と阿弥陀仏の關係に投影されるものであり、従因向果・従果向因の道理について、如何に理解すべきか多くの課題を残すものとなったように思われる。

ややもすると、分かったような気になって曖昧に使っていた一つひとつの言葉に対して、厳密に精査することを怠ってきた私自身への啓発となる、意義ある研修であったと思う。

次に教学座談会であるが、「供養について」とご案内しながら、「ペットの供養」をメインにもってきた。参加者に戸惑いが見られたことは、紙面を借りて陳謝いたす次第です。が、室内犬をはじめ、空前のペットブームが起こっている昨今、癒し系も含め家族同然的存在の地位を確立しつつあるペットの葬儀、あるいは供養について、浄土真宗はいかに対応できるか。新たな真宗離れの元凶を拡大しつつある現状を踏まえての座談会。

実際、「ペット供養」等で検索すると、鳥取・島根両県において複数の施設のホームページが閲覧できる。座談会での意見交換の中に、かつては「真宗僧侶による農耕牛の供養があった」という報告もあり、家族同然に可愛がっていた家畜の供養、あるいは下関で行われる「河豚供養(真宗僧侶も出席)

に話が及び、真宗でも「あり」という意見がある一方、「なし」という声もあり、論議は紛糾した。

もちろん、当初から結論を設定しての座談会ではないので、こうした意見の相違の中からお互いが課題として共有し、折りに触れて論議し、切磋琢磨しながら研鑽を深めていくことを目的とする、課題提供の場である「教学座談会」としての目的は果たしたようにも思われるが、このことが「平行線」に終わらないことを念じてやまないところである。

最後に、「勤式講習会」により、大遠忌に向けて制定された「宗祖讃仰作法」について講習を受けた。その後の各組各寺院の様子を伺うと、「組お待ち受け法要」や「お取り越し報恩講」などで勤修するために組において講習がもたれるなど、組勤式推進員の方々のご活躍に感謝申し上げ、良い意味での波紋の広がりを感じているところである。



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店  
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社  
古田佛具製作所

営業時間/午前9時より午後5時30分 定休日/日・祝日

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)  
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836  
http://www.furuta-butstugu.jp

JTB Your Global Lifestyle Partner  
株式会社JTB中国四国  
松江支店

住所：〒690-0003  
島根県松江市朝日町480-8 松江SKYビル1F  
TEL：0852-23-2020(国内旅行)/23-2024(海外旅行)  
0852-23-6720(団体旅行)  
FAX：0852-23-2023

# 『承元の法難』 八百年を記念して 基推婦人研修会、組相談員研修会開催される



去る九月一日(火)

には「基幹運動推進婦人研修会」が出雲市民会館、続く一〇月八日(木)には「組相談員研修会」が本願寺山陰教堂にて開催された。

共に「承元の法難に学ぶ」として、『DVD承元の法難制作委員会』代表・菅原龍憲師(大田組正蔵坊)をお招きして、ご講義、課題提起をいただいた。参加者は基推婦人研修会が一五四名、組相談員研修会が一八名であった。

『DVD承元の法難』は、親鸞聖人が越後へご流罪となられた承元元年(一二〇七)から八百年を経過することを記念して昨年二月に制作されたものである。かねてからの「承元の法難についての学びを」という

声に応えて、基推委社会部会での協議により開催の運びとなった。

両研修会は、①DVD『承元の法難』の上映並びに制作の意図の説明、②愚禿の名のりの原点を『承元の法難』より見る、③本願寺教団の歴史に於ける負性(封建時代における差別、戦中に於ける戦時教学)、④親鸞聖人の視線を学ぶ(ヤスクニ関連訴訟を通じて)について基調講演(課題提起)をいただき、参加者との質疑応答により構成された。

基推婦人研修会では、①『承元の法難』について、興福寺奏状を初めとする資料等を交えての研修を初めて受けたという報告があったり、②今研修会に参加して、「非常によく理解できた」という感想を得ることができた。

また、組相談員研修会では、先ず①『本典』(後序)の執筆に関して、一般に言われる五二歳説、晩年の説に対して、古田武彦氏等の採られる三五歳説など論議が交わされた。②次に靖国問題に関する一連の裁判の状況から見えてきた課題から、靖国に代わる国立の追悼施設の問題点、

さらには千鳥が淵全戦没者追悼法要のあり方などについて意見が交わされた。③また「安穩」「世のなか安穩なれ」の言葉の使い方から、『ご消息』の書かれた背景、関東の門弟の混乱と鎌倉幕府の念仏弾圧、そして裁判などについて学びを深めることができた。さらには、最近目立つ「戦略」という言葉など、「言葉のひとり歩き」などが指摘され、丁寧な言葉遣いが確認された。④政教分離の観点から、宗門の国政選挙の特別推薦などについての関わり方や、佐賀県での判決を受けて、かつて山陰教区が制作したリーフレット「自治会と神社問題」の再版および各研修会の開催、行政への要望書の提出など多くの意見が出された。

これらの提言の中、リーフレットの再版や行政への要望提出などは、今後の教区基推委の課題である。



お仏壇・仏具は やっぱり京都・・・



SINCE 1830

心にほろご法要を... Support 750 MADE IN KYOTO

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

www.wakabayashi.co.jp

京都本社 / 京都市下京区七条通新町東入 (075)371-3131 (代)年中無休〒600-8218

フリーダイヤル ☎0120-37-8585 (各店共通)

東京店・築地店・札幌店・仙台店 近江草津店・福岡(営)・新潟(営)

E-mail info@wakabayashi.co.jp

御本山御用達 開明社員

幕章袋式 門徒衣 珠・帷子 旗念珠・念 袈裟袴袍帳 袈裟切布 條條衣・敷 七五色黒打

井筒法衣店

代表取締役社長 幾田潤

(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)  
フリーダイヤル TEL 0120-075-720  
フリーダイヤル FAX 0120-075-490

## 山陰教区仏教壮年会ブロック別研修会

三組(石東・大田・三瓶) 合同仏壮

齊藤 寛

多くの参加者のなかで本願寺仏教壮年会連盟の登録証の授与を代表として受けさせて戴きました。大変恐縮致しました。

私は三組合同仏壮の登録の代表でしかありません「信心」において覚束ない輩です。会長の下迫さんはお寺を「生き支度の場合」をモットーに会員は深く心に刻めと厳しく戒められました。

三組では、基本方針として三年間で各寺院の門信徒会運動を進め運動の推進システムを整えると示され、具体策として共々に「本願念仏」のいわれを聴聞し、意見交換の機会をつくり、「本願念仏」の実践者を育てる場としての連研を実施して積極的に関り、共々にお育て頂き、各寺院に門信徒会や「仏壮」を促し、「運動」部門(基幹運動推進委員会)の設置を勧め、門徒推進員や仏壮は積極的に関っていくよう具体的に共に歩めと示されています。

その意思に添い、参加した教区の地区研修会では各仏壮の皆様の意見を拝聴し、参考となる事例もいくつかあり、研修会と交流の意義を今後の展開に活かして参りたいと思えます。

長楽寺仏壮社会会長 成相 淳一

出雲地区仏壮研修会に、この度初めて参加しました。私たちの仏壮社会は、今年度結成されたばかりであり、各地区の皆様がどのように運営されているのかも分からず、何かの参考にしたく参加しました。

会場の設営・準備・運営等、乗光寺仏壮の皆様のご努力には敬意を表します。

問題提起では私どもの住職が講師をされ、私たちの壮年会発足の経過等を述べられました。これからの進め方には苦慮しておりますが、研修会後半の分散会で各仏壮会の皆様の体験やご意見を伺いましたので、参考にしていきたいと思えます。

分散会では、「会員はいるが、参加者が固定化されており、多くの会員に参加してもらうため、法話や清掃等の他に、焼き肉会等を行い、若い人たちの参加を呼びかけて少しでも参加者を増やす」ことを提案されている仏壮会もありました。

皆様方も参加者の増加のためにいろいろな取り組みをしながら、運営されていることが分かりました。

私も皆様方の提案を聞き、今後の仏壮会運営をより活発にするよう検討していきたいと思えます。

今後のこの研修会では、素晴らしい活動をしている会の内容を発表して頂ければ、良い参考になると思えます。

## 第四連区ビハーラ研修会に参加して

ビハーラ浜田代表 引地 良一

二〇〇九年度の第四連区のビハーラ研修会が、広島西区民センターで『認知症になっても安心して暮らせる社会を』をテーマに開催され、山陰教区から十四名が参加した。

認知症家族会の村上さんから『認知症を正しく理解しよう 現場の視点から』と題して、会の沿革、活動内容の紹介があり、認知症の介護は、地域社会の理解と協力の必要性を強く訴えられ、共感することが沢山あった。

続いて寸劇「認知症高齢者と一緒に健やかに暮らすために」が上演された。設定は認知症のお爺様、長男夫婦と孫の五大家族。前半は、お爺様の物忘れ、食事、排泄等の失敗を咎めることにより、不協和に陥る様子、後半は、物忘れや失敗を優しく受け止めることにより、和やかな関係が構築される様子を、西医療センター臨床研究部長・片山先生の解説入りで演じられ、笑いの中に、多くのことを学ぶことができた。

引き続き、片山先生より医学の視点から「認知症」は、六五才以上の九人に一人、八五才以上の四人に一人がかかる病気であり、誰でもかかり得る病気で、日頃から脳の活性化に努める必要性がある。他人事としてでなく、自分も既に入りに来てい

ることを改めて認識させられた。現在、五ヶ処の施設を訪問しているが、自らも行く道であることを認識して、おぎなりの対応でなく、相手を我が身とおきかえて、温かく接すべきと話され、肝に銘じた次第です。

### 『地域とお寺で支え合い』

私の地区では、昭和四十年頃までは、近隣の町内で、お仲間講という講があり、三十人ばかりの真宗門徒が、輪番で会所を提供して、御法義、世間話の中での、情報交換。その場では、年長者が中心の、他で得られない、温もりのある会であったが、今は消滅したことは残念である。これの再構築は、並大抵のことではないが、寺の総力をあげて、取組む必要性を、痛感しました。

今後も  
一生懸命  
ビハーラ  
活動に励  
む所存で  
す。



## 第四連区青年布教使研修会に参加して

邑智東組西福寺 小笠原 宣 隆

去る十月六日・七日に高松国際ホテルなどを会場として、第四連区青年布教使研修会が開催されました。

テーマは「親鸞さまの魅力を現代に！」で、サブテーマは「阿弥陀さまの温もりに出遇えたよるこびを確かめあい、わかちあいましよう」でした。

参加人数は六十二名で、山陰教区からは九名の方が参加されました。

大会日程は、六日の午後より、高松国際ホテルで開会式を行ったのち、参加者は布教実演の会所である、本願寺高松教堂と教円寺の二つにわかれて、それぞれお聴聞させていただきました。各会所二名の青年布教使の方がお取り次ぎをされ、休憩ののち、本願寺高松教堂では備後教区布教団副団長が、教円寺では安芸教区布教団副団長がまとめのお取り次ぎをされました。

私は教円寺にてお聴聞させていただいていましたが、泣いたり笑ったり、感情を揺さぶられるお取り次ぎがあり、大変有り難くお聴聞させていただきました。

布教実演ののち協議会が行われ、各布教団副団長が布教実演者に感想

とアドバイスを伝えられ、お聴聞していた参加者全員もそれぞれ感想を述べさせていただきました。

協議会終了後、ホテルに移動して、夕方より懇親会が行われ、六日の日程は終了しました。

七日は、晨朝勤行・法話、基幹運動研修が行われ、休憩をはさみ馬場昭道先生より「ちよっといひ出会い」という演題で、講義をいただきました。

馬場先生の講義は、大変エネルギーッシユな内容で、ご自身のお寺で、様々な宗派や他の分野の先生方を招いて活動していらっしやるお話をされました。

大会に参加しての感想は、自ら布教使として語ることに力をおいていても、聞くということを疎かにしていたことに気付かされる研修会でした。

教円寺の御同行の仏法を聞き求める眼差し、お姿に気付かされました。今後より一層お聴聞を大切にしていきたいと思えます。



### 『連研のための研究会』

十月五日、本願寺山陰教堂にて

「連研のための研究会」が開催された。各組より組長、相談員、連研担当者を中心に四十三名が研修した。

今年度のテーマは「脳死について〜仏教では生命をどのようにみているのでしょうか〜」。講師は連研中央講師、鷲尾衛鳳師(兵庫教区)。

「脳死」という、誰もがその現場に立ち入ることはできない事実、われわれ僧侶はどのように取り組んでいくのか。教学の上で、脳死をどうとらえるべきなのか。鷲尾講師に問題提起をしていただき、仏教の中

での命の考え方、浄土真宗における生死のとりえ方を考える研究会になった。

また、全体協議会では「連研を履修するということは、完璧なお同行を育てることではない」「話し合い法座の中で、悩みを共有することの再確認であるような研修でありたい。」「単独組での連研が困難な組があり、隣組との合同による連研を実施する難しさ。」などの提言があった。

今後、連研専門委員会を中心に連研の発展のために思索していきたい。

昭和33年10月  
たった1台のタイプライターから  
当社の歴史は始まりました



あなたの要望を形に!  
**商業印刷**  
印刷の原点はここにある  
**出版印刷**  
活用法は無制限  
**マルチメディア制作**  
出力サービスもおまかせ  
**オンデマンド印刷**  
イベント用ポスターなど

**株式会社谷口印刷**  
TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 松江市東長江町902-59 朝日ヒルズ  
TEL(0852)36-5888 FAX(0852)36-5889

### 寺族婦人会連盟結成 四十周年記念研修会に参加して

石東組設我寺坊守 宮脇貞子

九月十四日(月)に、出雲組の妙寿寺で、山陰教区寺族婦人会連盟、結成四十周年記念研修会が開かれました。

十年位前から、身体の関節が痛くて遠出は不可能な私でした。それでも当番制だから、いまさら逃げるわけにもいきません。

まず、向拝のたもとに活けられた、あでやかな秋の花に心を奪われました。そして、阿弥陀如来さまの所へは、これまた美しい松にユリ、つづいて廊下、洗面所あたり迄、奥ゆかしく活けられた花々。本当に心安らく思いました。

やがて講話が始まりました。講師は清胤祐子先生、講題は「あなたにあえたから」。

ご議題のあと「本日は一二九名の参加者だそうでした、これは私にとっては、一二九名の姑さんに見つめられているようなものでして」と。開口一番、ど肝を抜かれてしまいました。歯切れのいい口調で、自己紹介がありました。

テレビのアナウンサーで「お天気お姉さん」をやっておられたようです。その後、広島音楽高校でご主人と出会い、ご結婚。そしてご夫婦揃って入寺されたそうです。

「私には、三人の母がいます。」とおつ

しやる。どういふことかと耳を傾けると、実母、主人の母親、そして入寺した先の大坊守、なるほど。これで三人の母親か、納得しました。

そして、法話を聴いてもわからない人、日本語のわからない人などへの対応として、紙芝居法話を披露されました。手描きの大型紙芝居です。何ごとにも、手抜きをしない、骨身を惜しまない方です。

ご講師は、「まさか、まさかの」ご主人との出会いから、仏門に入っていく間にか法話の中に引き込まれていました。「いい縁にあつたなあ」「あなたにあなたにあえたから」です。つまり、本願にあえたからです。でも、私は、時々忘れていきます。

これからは本山から配布された「浄土真宗のみ教え」を拝読しよう。それから、中央新報に連載された「親鸞」上・下も、もう一度読み返してみようと思つてるところです。

杖をつき、足を引きづりながらはるばる来てよかったです。みなさま本当にありがとうございました。



## 報 告

# 中国ブロックシンポジウム

十月十七日(土)、本願寺広島別院において、山陰・備後・安芸・山口の四教区を中国ブロックとして、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業の一環としてシンポジウムが開催されました。

日本人宇宙飛行士第一号である秋山豊寛氏を講師に「宇宙の果てから見えたもの」と題して基調講演が行われました。併せて、各教区から選出されたパネリストが秋山氏を囲みパネルディスカッションを行いました。山陰教区からは大森組浄福寺ご住職・高津慎悟氏がパネリストとして登場。ご自身の農業の現場体験をもとにして、これからの環境問題、自然と私たちの関わり方について貴重なご意見をいただきました。

また、当日は各教区の紹介コーナーにおいて、山陰教区からは才市さん、善太郎さん、源左さんゆかりの品々をお借りして展示を行いました。ご来場の皆さまより、「山陰の妙好人の方々のご縁をいただきました。」と喜びのお言葉をいただきました。ご

協力いただいたご寺院に紙面を借りてお礼申し上げます。

一方、このシンポジウムの一週間前には「ナナハン西遊記」という関連の行事が行われ、本願寺の常夜灯の灯明が広島別院に持ち帰られました。そして、当日に分灯式が行われ、中国ブロック事業委員・澤田隆之基推副会長に山陰教区へ分灯されました。そして、十月二十一日の「会館落慶記念法要」において、主管より山陰教堂に分灯されました。

なお、この灯明は、各お寺の法要やご自宅の仏事などで灯すことができるよう教堂において大切に保管されております(平成二十二年三月まで)。ご希望の方は、

一週間前までに山陰教区教務所までご連絡いたします。



第55回 中・四国地区仏教婦人会 (若婦人) 大会

赤ちゃんの泣き声がとても心地よく

因幡組願正寺仏婦 長谷川洋子

十月二十四日から二十五日、『《連》つながり』をテーマに、備後教区照源寺にて『第五回中・四国地区仏教婦人会 (若婦人大会)』が開催されました。

会場の照源寺さんは、立ち退きのため新しく建てられたので、まだピカピカの一年生でした。境内に続く道の両脇には、プランターが置かれ、総裁さまも足を止められるほどきれ

いで、手入れが行き届いていました。さて、この研修の目的ですが、子育て真っ只中の若婦人にお寺に集まっていたいただき、初日は本堂で藤井邦麻呂先生のお話を聞き、意見交換、ホテルで食事をしながらの交流。そして二日目は体験を通して学べるワークショップに参加し、仏縁を通してのつながりを深めることでした。

お子様同伴ということもあり、赤ちゃんが泣き、子どもさんの話し声がしている中での開会式、そして総裁様の祝辞。こういう賑やかな開会式は初めてです。開会式というと、シーンと静まり返って緊張しますが、今回は赤ちゃんの泣き声がとても心地よくさえ思われました。

ワークショップで私は、「もっと知りたい浄土真宗の教え」を選択しました。講師の藤井邦磨先生の「何が知りたいの?」という質問に対してなかなか手を上げる人がいなかったのですが、「みんなで話そう」の会の時の自己紹介で「仏壇の扉の閉めは私の仕事です」と言うと、皆が「扉は開けっぱなしだよ」と一斉に私に注目。この件は、ワーク

シヨップで質問する事になり、私のグループの人が一番に手を上げて、その質問をしていました。先生が四十数名全員に「扉の開け閉めをしている人、手を上げて」と言われると、なんと私一人だけでした。ドキドキしている私に、「朝起きた時に開け、やすむ前に閉めるのが本当ですが、わしも開けっ放しだよ」とおっしゃり、爆笑でした。日に一度は如来さまにお参りする、月に一度は寺にお参りする、年に一度は御本山にお参りする。この事をするのはとても大変なので、門徒のたしなみとして、日に一度は如来さまにお参りして下さい。五分早く起きれば出来る事ですから、皆さん実



行される事でしょう。

私が今回の研修で一番感激したのは「ほほえみの会」です。一年も前から準備で完璧。キャンドルリレーでは、まるで結婚式のような、うっとりとした口調で、とても幸せな気分になりました。全てが手作りで、暖かく、そして笑いもあり、ただただ感心するばかりでした。ありがとうございました。

みんなあつまれほとけの子!

山陰教区ほとけの子ども集い・少年連盟結成40周年記念行事お知らせ

- 1、期 日 2010 (平成22) 年4月1日 (木)
- 2、会 場 出雲組成福寺  
雲南市大東町前原309
- 3、日 程 13:00 開会式  
14:00 行事 (ゲーム等)  
16:30 閉会式
- 4、対 象 者 新年度に小学生1年生から中学生1年生になる子ども  
(連盟加入は問いません)
- 5、募集人数 150名

詳細につきましては別途全寺院にご案内いたします。  
山陰教区少年連盟

# キッズの広場

## はじめてのキッズサンガ

伯耆組勝福寺 若原慶昭

八月九日、当山では初めての試みとなる「勝福寺キッズサンガ」を開催いたしました。

当寺では、十年ほど前まで経営していた保育園を県に委譲して以来、お寺に小さな子供が寄る機会が大きく減っていました。こういった現状をなんとかして変え、一人でも多く阿弥陀さまに遇うご縁を作っていかなければならないという思いから、キッズサンガを開催しました。

初めてのことがばかりで慣れないこともあり、あまり詰め込みすぎてもはかどらないということで、十四時〜十七時の三時間程度の間にお焼香の作法、お念珠づくり、一週間後のお盆に合わせて盆踊りの練習といったプログラム内容にしました。

手探りの部分が多く、プログラム通りに進められるか心配でしたが、壮年会・婦人部・保護者の方々のサポートもあり、ほぼ時間通りに進められました。

メインは念珠作りですが、子供達が自分で好きな色の組み合わせを考え、自分だけの念珠を作り、愛着を持ってくれればと思つて、十色の珠を揃えてみました。念珠作りは思つたより難しく、大人の方が夢中にな

っているという状態でした。子供達も難しいところは親御さんに手伝ってもらいながら、なんとか全員が個性豊かなmy(マイ)念珠を完成させ、記念の集合写真を撮ることが出来ました。

休憩中は、階段に並んで座つてかき氷を何杯もほおぼる子や、本堂を追いかけっこして走り回る子供達が見られました。

解散後、希望する子に梵鐘を鳴らさせてあげると、行列が出来るほどの人気でした。

当日は、子供二十人の参加とその保護者、壮年会・婦人部のサポーターの方々を含め四十人以上の人が本堂に集まり、大変賑やかな午後となりました。あらためて、こういった機会をもっと増やしていきたいという思いを強くしました。

お参りした子供の半分が本堂に上がるのも初めてという子達で、経験すること全部が新鮮で、お寺に対するイメージも大きく変わったようです。お寺離れが進む現代においては、子供の時分からいかに

お寺に親しい気持ちをもつてもらえるかが大きな課題となります。地域の方に受け入れら



れるためにお寺や僧侶の在り方はどうあるべきか、周りで支えてくださる方々の助言もいただきながら、ゆつくり考えていきたいと思つています。

## 子どもたちが育てた仏飯米

鹿足組善正寺 齋藤断城

この四月から始めた月に一回の日曜学校。「お寺を子どもの居場所に」キッズサンガなど大それたことは全く考えていなかった。今の時代に失われているものは何か、子ども達に何を伝えるべきかを問うてみると、人との繋がりと手を合わせる感謝の心と生きぬく力。そこで始めたのが田んぼと畑の土いじりだった。人口九千人たらずの山間部、高齢化率も約四十%。高齢者ばかりだから過疎化だから何も出来ないのではない。お年寄りが多からこそ出来る事、農業のプロ集団だ。「お爺ちゃんお婆ちゃん、知恵袋を貸しちゃんさい」つまらんものは何も無い。阿弥陀経の「青色青光」の世界である。総代、仏婦を中心に門徒であるうがなかるうが、地域の逸材をフルに活用する。そんな中でのスタートだった。

日曜学校の一日は「合掌。念仏三唱」から始まる。お経は「重誓偈」。その後は二十分の座禅。座禅は子どもの発想で、お寺といえは座禅修行のイメージ。精神修養は大事なことで、心を静かに自分に克つ、我慢すること。それが終わったら、いざ田んぼへ

畑へ出かけて農作業。子ども自ら鎌を持ち鎌を持ち、田畑を耕し種をまいたり苗を植える。農具を持った事のない親達もお年寄りに教わりながら、やがて収穫の時期に。稲刈りをしながら田んぼに落ちた一粒の米、畑に落ちた一粒の小豆を一生懸命に拾い集める小さな手に一粒のいのちを感じさせて頂く、もったいないの心のあらわれる姿。本堂に掲げてある七五〇回大遠忌のご消息、「あのおじさん一番偉い人なの？」御門主様の言葉も知らない子ども達。「あの人

に僕らの作ったお米を持って行こうやあ」の一言で今回実現した「仏飯米奉告法要」。初めての本願寺御影堂の大きさに「キョトン」とする子ども達、それでも大きな声で唱えた重誓偈。御仏飯の大きさにビックリの仏飯所。子ども達の心の中にどう刻まれるのか。

形式にとらわれず、何を残し伝えるか。子どもを中心に、親と子ども、地域のお年寄りが共に汗をかきながらの日曜学校。現在の会員は三才から小学生まで子ども二十名、大人が十五名。ともに

阿弥陀さまの御前で仏の子どもとして大きく育つている。日々念仏



ドレミファ組

邑智西組お持ち受け法要  
「講演と歌のライブ」

邑智西組相談員 願入寺 日高秀憲

教区内の各組で、お待ち受け法要  
がお勤めになっております。当邑智  
西組に於きましても、去る十月二十  
五日(日)新築オープンした矢上交  
流センターを会場として三百五十名  
参加のもと、お勤めさせていただきました。

組全体で盛り上げようと、一年前  
より組長を中心に各寺の住職、寺族  
婦人、総代、仏婦、門推の皆さんの  
協力で実行委員会を立ち上げ、数回  
の会合を重ねて当日を迎えました。

幸い天候に恵まれ、一時より法要  
開始、照明をおとした会場に、キッ  
ズサンガの取り組みとして各寺より  
二〜三名の小学生(計三十五名)の  
献灯(水の入った色ガラスの中にロ  
ソクを浮かべ点灯したもの)で始  
まり、雅楽の流れる中を組内十五名  
の住職が入場し、参加者全員で正信  
偈をお勤めいたしました。

記念講演では、勸学・靈山勝海先  
生より浄土真宗の根本、信心をいた  
だいたらどういう生き方をするか、  
妙好人を例にお話をいただきました。

歌のライブでは、大谷派僧侶・鈴  
木昌代さんにより、人との出会い、  
親鸞聖人との出会い、命の大切さ、  
愛について、自作曲をギターでト  
クをまじえて熱唱していただきました。

両師のお話に感動し、この法要を  
ご縁に七百五十回大遠忌法要を迎え  
るにあたり、心新たに親鸞聖人の御  
遺徳を偲び、五十年に一度のご勝縁  
に出遇う慶びを感じさせていただきました。



編集後記

十月から十一月にかけて、教区の  
各地で「お待ち受け法要」が多く勤  
められました。

それぞれが様々な趣向をこらして  
準備を進められて、多くの方に参拝  
していただき、大盛況であったと思  
います。

また、子供たちの劇や稚児行列な  
ど、子供たちも多く参加できる企画  
もあり、キッズサンガの場がそこに  
あったような感じが致します。

当組でも献花を子供たちにしても  
りました。会所にて夏休みに行わ  
れたキッズサンガで自分たちが作っ  
た、それぞれ特徴のある念珠を手  
持って、献花をしている姿がとても  
印象に残りました。

その子供たちから「お寺は楽し  
い」という声を聞き、益々お寺が子  
供たちの居場所になるように努めな  
ければならないと感じました。

追記

諸般の事情により発行が大変遅れ  
ましたこと、紙面をお借りして、お  
詫び申し上げます。(編集委員会)

……ともに いのち かがやく 世界へ……

「大遠忌法要」  
「念仏奉仕団」

の団体参拝の計画は  
お気軽にご相談下さい。

………旅のことならどんな事でも………

knt! 近畿日本ツーリスト

〒690-0887 松江市殿町171番地(県庁前)島根石油ビル1F  
(国土交通大臣登録旅行業第20号)

ここにこ よやくさんぼん  
☎(0852) 22-4893

